

---

# 「第1回特発性心室細動研究会」特集号の発行にあたって

---

特発性心室細動研究会(J-IVFS)代表幹事 平岡昌和  
(東京医科歯科大学難治疾患研究所)

Brugada症候群は、10年余り前に初めて報告された比較的新しい原因不明の症候群ですが、心疾患を合併しない一見正常人に発生する致死的不整脈であり、その特異な心電図所見、我が国に比較的高い発症率をみる、などの理由から、近年注目を浴びている病態であります。また、Brugada症候群に特有とされる心電図所見を欠く特発性心室細動の症例も報告され、成因や病態を含めBrugada症候群との相違も明らかではありません。平成12年秋の第17回日本心電学会のサテライトシンポジウムで「Brugada症候群とその治療法」が開催されましたところ、多数の先生方に参加をいただき興味ある研究発表がなされました。その際に、個々の医療機関や研究室単位での報告ではこの病態の本体を解明するには限界があり、全国レベルでの共同調査研究の必要性が話し合われました。そこで当日参加された施設を中心にBrugada症候群やそれ以外の特発性心室細動例のアンケート調査を行い、平成13年の第18回日本心電学会のファイヤーサイドカンファレンス「Brugada症候群」にてその集計結果が報告されました。その結果、ある程度限られた施設からの回答にもかかわらずBrugada症候群の有症候群が216例、

無症候群が357例、特発性心室細動の有症候群が126例の多数の集計がなされ、これらの症例についてさらに詳しい調査研究を継続することが提案され、100以上の施設から「共同研究に参加」の賛同を得ました。そこで、より広い全国レベルでの共同調査研究を継続して行うには、不整脈領域の専門家の参加と資金面での支援が必要となりますので、この方面の業績を上げておられる先生方に幹事をお願いして研究会を立ち上げ、また財団法人日本心臓財団のご承認のもとに協賛企業からの寄付をお願いすることにいたしました。幸い、心臓財団には我々の主旨に快くご賛同をいただき本研究会の後援をしていただくことになりました。このような主旨で発足した本研究会では、Brugada症候群を含む特発性心室細動に関する成因、病態、診断と心室細動発作のリスク判定、治療法の開発、予後調査、などを数年間にわたり継続的に行って本症候群ならびにその類縁疾患についての本体解明に迫りたいと願っております。本特集号は、その第1回研究会での発表内容をまとめたものであり、特発性心室細動の成因・病態・診断や治療に関する有益な情報を含むものと期待しております。